

2018前期「福島の災害復興に学ぶ」第6回（開沼2回目）

○指定文献を読み、クイズを3問以上作って下さい

"Q.震災前の福島の人口はどれくらい？

A.200万人ほど

Q.福島から震災後に県外に避難している人の数はどれくらい？

A.4,6万人ほど

Q.福島の高齢人口は震災前と比べて震災後何人ほど増えたか？

A.2万人ほど"

"【Q1】福島大学の一般入試の志望理由は、2011年度と2012年度ではどのように推移しているでしょう。

答え:約20%増

【Q2】東日本大震災・災害復旧事業は現在何%着手されているでしょう。

答え:約98%(91%が完了)

【Q3】震災前(平成22年)の外国人延べ宿泊者数は87,170人であった。震災のあった平成23年は23,990人。では、平成28年時点では約何人でしょう。

答え:71,270人

"Q1.震災後、福島県から県外へ避難して暮らすようになった人は、全体で何%？ A.2.3%

Q2.当初、復興予算は震災から5年間でいくら使うという前提で用意されていたでしょうか？（なお、平成26年度一般会計予算は約95.9兆円です） A.19兆円

Q3.福島県の人口に関する大きな問題点は、単なる「人口減少」ではなく、「急激な少子高齢化」です。では、2011年に50.2万人だった福島県の高齢人口は、2014年には何人になっているのでしょうか？ A.52.6万人"

"・Q1, 震災後、福島県の人口の約何パーセントが県外に避難した？

A1, 約 [ ] % (約2.3%。200万人中約4.6万人)

・Q2, 2011年以降、福島県の人口は減ってゆく一方だ。

A2, [ ] (×。人口増加率はむしろ震災以前よりも上がる。市が従来持っていたキャパシティよりも増えすぎて賃貸物件の大半は既に埋まっている、また、地価が上がる等、バブルも起きているくらい。)

・Q3, 避難区域に住んでいた人、特に高齢者は、震災後地元に戻りがっている。

A3, [ ] (×。いわき市、郡山市に引っ越した人は、若者、高齢者関係なく、戻らないというケースも多い。)"

"Q.震災の影響が大きくあった福島に対し、他の東北地方の県の人口減少率は高いか、低い  
か? (高い)

Q.福島での人口減少が叫ばれた際、1つの日本としての問題が「可視化」された。それは何  
か? (少子高齢化)

Q.人口は便利で住みやすい地域に流れ込む。今回震災でその変化は何倍速で進んだか? (10  
倍)"

"福島県の人口の減少は2000年と2005年を比べて減少が少ない方から何位?

福島県の人口の増減率は2000年~2005年で全国的に何番目に多い?

福島県の増減率の差は2000年~2005年、2005年~2010年を比べて全国で何番目に多い?  
"

"Q1 復興予算は震災から5年間で何兆円用意されたか。

A 25兆円

Q2 日本に暮らす人の何割が福島からの人口流出イメージを強くもっているか。

A 8割

Q3 震災前の福島の人口は200万人ほどであり、福島から震災後に県外に避難している人  
の数は何万人か。

A 4.6万人"

"Q、高齢人口は震災後何人増加したか? A、2万人

Q、年少人口は震災後何人減少したか? A、3万人

Q、2040年多くの地方が消滅すると言われていますが、全国約1800市町村のうち[ ]の  
自治体で20~39歳の女性の数が5割以上減る。 A、896"

"Q.2005年から2010年で福島の人口は約7万人減りました。では、震災があった年を含む  
2010年から2014年では約何万人減ったのでしょうか?

A.8万人

Q.ある地域の人口が減少しています。あなたはそれを抑制したいです。何をすべきでし  
ょうか?

A.まちづくり

Q.歴史的に見ても精神的に見ても1つのモードが終わり、次のモードへと移り変わって  
いく時間はどのくらいでしょうか?

A.25年"

○指定文献を読み、コメントを書いてください（500字以上）

"文献を読み、福島復興は遅れている、私もそう思っていた1人でした。なぜなら、メディアで毎年そう伝えられるからです。文献で「復興は早すぎた」この言葉を聞いて驚きました。たしかに、私は震災から数年後に福島を訪れた時、道は綺麗で、土砂も目立ちませんでした。建物は少なかったが、復興前に栄えていた場所というわけではないと思うので、これで復興ができていると思いました。だが、そこで、「復興ができている」と思うことが、足を止めてしまうと思います。復興はもう十分だと思ってしまうと、そこから何も進まないだろうし、人々は震災の被害、恐ろしさを忘れてしまうのではないかと思います。復興は進んでいる、それだけでなく、人々が安心して暮らせるか、観光地として何かできることはないか、と、**復興以上のこと**を見ていくべきではないかと私は思います。

また、福島の人口減少について、わたしは福島の人口は3・11以降だいたい人口が減少した、という勝手なイメージだけで曖昧な考えを持っていました。だが、「はじめての福島学」を読み、福島の人口の問題は、普遍的に起こっていること、ということに気づかされました。人口はどの県でも増減するものです。福島の人口の減少は全て3・11のせいという考えは誤りであり、多くの人は福島県内に住み、生活を続けているということを私は知りませんでした。だが、その中でも、仮設住宅に住み、避難生活をよぎなくされている人がいることを、忘れてはいけないと思いました。"

"本書に挙げられている「六つの要素」、これは私たちが抱く福島への印象を形成している。これにはメディアの影響が大きく関わっていると思うが、7年経った今も謳われていることに少々疑問を抱いている。特講IIを受講し、さらに本書を読んでから、私たちが想像している福島と現実とは少々異なっていることをはっきりわかった。**とはいえ、今まで福島へ大した関心も持たずに生活してきたため、「想像と現実が違う」という非常に抽象的なことしかわかっていない。私と同じような認識をもつ人は多いだろう。**

「はじめに」の中で、数字やデータの性について記述されていた。データよりも問題なのはメディアの報道の仕方だろう。この点については二章で触れている。ついつい福島ばかりに注目しがちだが、他県と比較するとその差は大きくない、むしろ他県の方がひどい、なんてこともある。

メディアや情報に私たちは踊らされている。同じ日本国内で起こっている問題をきちんと把握できていないのだ。**無知だからこそ、「六つの要素」を永遠に言い続けるのだろう。**現状を知ってはじめて、問題を把握することができる。現地で起こっている複雑化した課題を知ることが、復興への第一歩なのではないだろうか。

"

今回の講義と本を読んで、私はまだまだ東北の大震災、そして福島県の災害について知らないことだらけだなと感じました。私は高校3年生の時に部活の大会で福島県を訪れたことがあります、私が行った市ではほとんど災害の影響を感じませんでした。それなのに、授業でやったクイズの1問目に60人と書いてしまったことがとても恥ずかしいです。今回の文献を読んで、復興が「早すぎた弊害が大きい」という部分をとても疑問に思いました。正直私はメディアを通して、復興はまだまだ進んでいないと思っていたので、驚きました。それと同時に、**政府が税収のおよそ半分の金額を復興の予算に当てていることは必要経費なので全く問題ないと思いますが、約25兆円が復興のどの部分に使われたのか、もっと国民に詳細に伝えるべきなのではないか**と感じました。私達だけでなく、震災にあわれた方たちはもっと**知る権利があると思います**。もっと政府が私達国民にしっかりと伝えていけば、「復興が遅れている」「風化が進んでいる」などと言われることはないのかもしれない。せつかく多額のお金を使って、復興に向けて働きかけているのに、その働きかけが知られないまま時間が過ぎていくのはお互いにとって良くないことだなと感じました。また、**私達も、メディアだけに頼るのではなく、東北大震災にもう少し関心を持って、自分から情報を求めにいかねばならないなとも思いました**。

" 「課題の単純化の問題」は「情報の送り手側」に大部分の否がある。多くの日本人はメディアから流される情報を鵜呑みにして、**悲観的傍観者**というか、「そうなんだ。大変なんだ。」と全てを受け入れている気がする。**海外では市民がメディア情報を是ほど信じ切っているのは珍しいという話も聞いた**。

書籍にもあるとおり、惨事便乗型知識人、多くの「専門家」「大学教授、准教授」がテレビの中で、よく分からない、「どこから出してきたんだろう」という数字を挙げながら、それを陰しそうな顔で聞いて頷くばかりのキャスター陣の面を今でもよく覚えている。

私は福島問題に限らずとも、このメディアの「課題の単純化」は、送り手側にも、受け手側にも問題があるのだと思う。それは知識教養の不足だったり、そもそも理解しようという気がない、「かわいそう。」というただ嘆いていたいだけの外野(であると思っている当人)、つまり悲観的傍観者の立場に落ち着いている人が多い、ということが挙げられると感じる。

例えば人口減少の問題で、福島県は震災があったから人口が減少している。という単純な因果関係を結ぶ。実際は、人口はむしろ増えているし、**震災がなくても今日本のほぼ全ての都市で人口は減っている**。テレビの中で誰かが解説しているのを聞いて、「人口減少でやばい」とか「放射線がやばい」とか、それをそのまま信じ切ってしまうのも、根本の問題を知らない、実際の問題が想像出来ない、という点が挙げられるだろう。言ってしまうえば、そうやってよかれと思って情報の受け手が嘆いているせいで、大変な思いをしているのは被災地の方の方なんだと理解すべきだ。

福島だから、という事で片付けてしまいたい、分からないから思考停止、という受け手側

の、情報の受け取り方の意識を変えていけたらと思う。

"

人口減少への対策として、地域活性化のために都会からビジネスが持ち込まれ、提案・実行され、若い移住者を増やす活動を行う市町村がある、とありました。しかし、もとよりその街に住むお年寄りにとっては、昔ながらの親しみのある街の変化について行くことができるのでしょうか。以前、地元の居酒屋で飲み、競馬やパチンコなどを楽しむお年寄りが街の変化に悩んでいる、というインタビューを見たことがありました。これは東京都豊島区の話です。この区では「女性の住みやすい街」を目指しており、子育てのしやすさはもちろん、若者にとって明るくて住みやすい、さらに「オシャレな街」を目指しています。また、姉妹都市である埼玉県秩父市に特別養護老人ホームを設立するよう申請し、豊島区と同じように人口減少が叫ばれる秩父市にも人口を増やすよう計画しています。私は、人口減少を心配し対策を考えるのは当たり前ですが、未来のことばかりを考えて計画を進めるのではなく、現在を考えて計画することも大切ではないかと考えました。実際、お年寄りが多い今、高齢者にとっても親しみのある、若者と高齢者が地元で共に住みやすい環境をつくることは考えられないのでしょうか。

"<復興>

復興が遅れているという考えは確かにあるかもしれないが、実はそういうわけではないと思われる。例えば予算だとしても復興予算は5年で19兆円使うという前提で用意されていたが実際には6兆円追加した25兆円が予算となったからだ。

復興予算には「白、黒、グレー」があるとされている。しかし実際には白なのに埋もれてしまった事例などもあり、理想と現実と直面することもある。また私たちは「復興が遅れている」というのではなく、改善点を探し、復興をスムーズにする努力が必要なのである。しかし、復興をスムーズにする努力はしていると思うし、それの上での話なので、論点を変える必要もあるかもしれない。例えば一手に復興と言っても様々であるし、メンタルケア、物理的な物のケアなど、あらゆる方向から復興を手助けすることはできると思う。

<人口>

福島の人流出のイメージでは世間では強く、私自身福島から人口流出した人は多いと思っていた。しかし実際にはそのようなことはなく避難者は県内に戻りつつあるし、決して福島からの避難者が県外に行き、帰ってくる姿勢がない、というわけではないのである。また問題は人口の減少よりも少子高齢化社会である。また人口減少対策は少子高齢化の対策と等しいのではなく、仕事や教育環境の整備、健康づくり町づくりのような広い意味での総合的な社会環境整備をしなければならない。福島は人口が減少するのではなく、増加する傾向にあり、人口増加率は震災前を超えているのである。"

"『はじめての福島学』で一番興味をもったのは、「福島の人口流出は10倍誤解されている」

についてである。私自身も福島からの人口流出のイメージといえば、社会問題化されつつあり、福島が抱える大きな問題であると感じていた。福島が100人の村だったら、約45人が震災後に県外で暮らすようになったと、答えるだろう。実際の世間のイメージを確認した調査からも全国1779人にインタビューし、そのうち1365人が「流出が続いている」と答え、日本に暮らす人の8割が福島からの人口流出イメージを強くもっているという結果が出た。しかし、正解は2.3%。この数値に私は驚きを隠せなかった。自身の予想は約45%、全国調査での答えも約25%、「現実の福島」と「イメージ上の福島」の間には実に10倍の差があった。

ここで、なぜ福島からの人口流出のイメージに10倍もの差ができてしまうのだろうか。私は、「メディアの発達」が原因ではないかと考えた。震災が起こった際、メディアという媒体は大きな役割を果たす反面、過度な情報発信技術ともいえる。被害の大きさや現状など国民が求めている情報が即座に発信される点に関しては評価したいが、その一方で、注目を集めるために大げさに報道するなどの実態があることもたしかだと感じる。実際に、私もニュースなどの報道から福島に対するイメージ付けがなされたに違いない。現地に足を運んで状況を確認したわけでもなく、テレビという媒体を通じて、勝手に自分自身でイメージを作る。このサイクルが繰り返されることで、現実とは何十倍も離れたイメージを持つてしまうと考えた。このような勝手なマイナスイメージを軽減させるためには、現地の人とのインタビューや現地訪問の様子をメディアで発信していくべきである。生の声は、聞き手にとって、信頼度の最も高い情報であるはずだ。専門家や芸能人の声も大切だろうが、やはり私は地元の被災者の言葉を一番大切にし、信頼すべきだと第1章、第2章を読んで感じた。

"

まずこの本を読んだとき、データの数字が多く出ていて自分がどれだけ福島に対し解をしていたのかがわかった。またメディアの取り上げ方にも疑問を感じた。私は自分で積極的に福島の現状について調べたことがなく、メディアを通してだけのイメージだったので避難者の方が福島に戻りつつあること、雇用が日本最高水準であることなど全く知らなかった。福島で起こっている問題は他の県でも起こっており、福島よりも深刻な現状があるにもかかわらず、何かしら東日本大震災や福島原発事故と関連付けられ報道している。メディアがどれだけ部分的に報道し、「福島はやばい」というイメージを植え付けているのかが分かった。そして自分自身もそのメディアのスティグマ化された報道だけを通して福島のことをわかったように思っていた。復興予算の問題も目的を達成するための政策に使われたものも多いが、不正に使っていたことが大きく報道され復興が進んでないと思うように誘導されていた。国民のどれくらいが復興が早すぎた弊害も多いと考えているのかと感じた。自分自身で積極的に調べることが大事だと分かったが、Googleで検索をかけるとGoogleサジェストの機能によりマイナスイメージの検索ワードばかりでそれが今の国民が思っている福島に対するイメージなのだろうと感じた。

"

「福島県から多くの人口が流出している」と沢山の人が考えていると 1 章と 2 章で説明がありました。私もそのように考えていました。震災後福島の人口はかなり減ったとどこでそのようなイメージを聞いたのか知ったのかは全くわかりません。しかし、どういう訳かそのような考え方を持っていました。実際に県外へ出ていった人の数は私が持っていたイメージよりはるかに少なく、さらに人口減少の問題も絡んでいたり、総体的に見れば人の数が増えているということがわかりました。

しかし、私は福島から人口が流出しているという考えは大げさではあるが、その考えでいることはあまり悪いことではないのではないかと思いました。なぜなら、たくさんの人々が流出しているという考え方は、県外へ出ていった人のことをちゃんと考えることが出来るのではないかと考えたからです。もし出ていった人が少なかった場合、少ないものには人の関心はあまり向けられないために、その人たちに関する福利厚生といったものが今よりもちゃんとしていなかったのではないかと思いました。大げさでも大きく声を上げることによって、県外に住まなければならなくなった人たちへ世間の関心が集まり、制度が作られていくのではないのかなと思いました。"

○要望や疑問があれば書いて下さい

特になし

課題提出が遅れてしまい申し訳ございません。

"なぜ私たちには福島の人口が減少しているというイメージがあるのか疑問に思いました。提出期限が今日の 23:59 までだと勘違いしていました。すみません。"